

News Letter

脳卒中 病診連携パス

脳神経外科 西村裕之
(クリニカルパス委員会 委員長)

脳卒中は、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の三つに大きく分けられます。いずれも発症すると脳神経外科などの専門医での急性期治療が必要ですが、非常に軽症だった場合を除き、後遺症に対し回復期でのリハビリテーションが必要

となります。その後は、状態に応じて、自宅、あるいは維持期の病院、施設に移り、維持期のリハビリや再発予防を行うこととなります。

当院は、高知県の医療計画で「脳卒中センター」としての位置づけにあり、急性期の脳卒中治療を担わなければならないが、地域での脳卒中治療を考えると、当院だけでは治療は完結できず、地域のリハビリ病院、介護施設、在宅など多くの施設、医療・介護従事者の方と一緒に、連携を取って治療していく必要があります。

＜脳血管障害、脳卒中の患者さんへ＞

幡多けんみん病院では、地域の医療機関、かかりつけの先生と連携を持ちながら、「脳卒中治療」を行います。



普段はかかりつけの先生が脳卒中予防や、危険因子(高血圧、糖尿病、高脂血症、不整脈など)の治療を行います



定期的に、けんみん病院脳神経外科を受診していただき、専門医の診察、定期検査(MRI、CT、頸部エコーなど)を行います。

脳卒中病診連携パス

かかりつけの先生と「脳卒中病診連携パス」を通じて診療情報のやり取り、専門医受診・検査予約を取ります。

患者さんのメリット

- ・普段は近くのかかりつけの先生に診ていただけます
- ・かかりつけの先生による総合的な診療が受けられます
- ・通院、複数病院受診などの負担が軽減されます
- ・専門医による診察・検査が定期的に受けられます
- ・連携病院間で、診療情報をしっかり管理できます
- ・再発、病状悪化などの場合、専門医での迅速な対応が可能です



昨年からは、当院と、地域のリハビリを行う十二病院と「脳卒中地域連携クリニカルパス」を作成し、急性期から回復期の連携を行っています。今年からさらに、地域の医療連携を進めていくため、当院脳神経外科と、地域の二十二医療機関で「脳卒中病診連携パス」を作成しました。

「脳卒中病診連携パス」とは、脳卒中後自宅復帰された方、維持期の施設に入所されている方、あるいは、脳卒中

を発症していなくても、危険因子のある方を、通常は地元のかかりつけ医の先生に総合的に診察していただき、発症予防、危険因子の管理などを行い、定期的に(例えば、半年とか1年に一回のペースで)専門医である当院脳神経外科で診察や検査を行うための連絡表のようなものです。

脳卒中の発症、再発予防には、かかりつけの先生と専門医との連携が必要です。この「脳卒中病診連携パス」を使うことで、かかりつけの先生と当院とで患者さんの情報を正確にやり取りし、必要な定期検査を抜かりなく行うことができます。患者さんにとっては、通常は、近くのかかりつけの先生に診察していただくことで、当院とかかりつけ医の両方を受診する必要がなく、通院の負担を少なくすることができ、何かの時には専門医と迅速に情報交換をすることができ、安心です。

現在、当院脳神経外科や、かかりつけ医で脳卒中の発症予防、再発予防、定期受診されている方で、「脳卒中病診連携パス」を用いたかかりつけの先生との連携をご希望の方は、ご相談ください。

CC委員会

今月の『専門職』は、『医師』です。当院外科、市川賢吾医師を紹介します。

Q1. あなたの担当業務を教えてください

A1. 外科医の業務は大きく分けると、外来、病棟、手術です。

外来は、手術後の患者さんの定期的な診察や、他院から外科的治療目的に紹介となった方、怪我などで外科を受診された方の診察、治療などを行っています。

病棟には、手術前・手術後の方、がんに対して抗がん剤治療を行っている方、外傷で入院されている方など、さまざまな方が入院されており、この方たちに対する検査、治療などを行っています。

手術は、胃がん、大腸がんなど、悪性疾患に対する手術や、胆石症、そ径ヘルニアなどの良性疾患に対する手術などを行っています。



病棟で患者さんの腹部画像をチェック

Q2. 現在の職業を選択した理由を教えてください

A2. 何か人の役に立てる仕事と考えたとき、一番に出てきたのが、医師という仕事だったと思います。

人の命をあずかり、治療をするという事は、責任感があり、やりがいもあるのではないかと思います。医学部を目指し、受験勉強をしたように記憶しています。

Q3. 業務を通じて、今までで最も心に残っている出来事を教えてください

A3. これという出来事はないですが、手術をして元気よく患者さんが退院される姿を見ると、

外科医をやっていてよかったなと思います。

Q4. あなたの好きな言葉、指標としてしている言葉を教えてください

A4. 『継続は力なり』
どんなことでも、続けることは大変だと痛感しています。



看護師さんとのカンファレンス

Q5. 読者の方(患者さん、一般の方、院内スタッフなど)へのメッセージをお願いします

医療はチームワークが大事で、外科医だけで全ての病気を治せるわけではありません。

他科の先生方、看護師やコメディカルの方々と協力して、幅広い地域の医療に貢献できたらと思います。

患者さんが「いい治療を受けら

れた」、医療従事者も「いい治療を提供できた」と思えるような病院になるように、これからも仕事に励みたいと思います。

手術をされた患者さんが元気によく退院される姿を見ると、外科医をやっていてよかったと思う、と答えられた市川先生。日々患者さんと真剣に向き合い、患者さんのためにできることを精一杯行われている先生だからこそ、出てきた答えのような気がしました。

医師ではない自分が、医師という職業の大変さを全て理解することはできないかもしれませんが、でも、患者さんが元気になる姿に仕事のやりがいを感じ、どんなに忙しくても頑張る先生方の思いを尊重することはできると思います。

患者さんのために働く先生がいて、患者さんの事をともに考え、先生をサポートする多職種スタッフがいる。患者さんの笑顔を見て、働きがいを感じるスタッフが一人でも多くなるよう、このような環境を継続させることが大切だと思えました。

からだ口やさいい食生活

栄養科

トマトやおくら、胡瓜や茄子などの夏野菜の季節です。

現在は年中出回っているトマトですが、夏は気温が高く日照も多いために成長のスピードが早くなり、水けが多く、酸味の強いトマトになります。栄養面では、カリウムが豊富に含まれ、酸味が胃液の分泌を促し、たんぱく質などの消化を助けてくれます。またビタミンCも豊富に含まれています(1個200gで1日のビタミンCの所要量の40%摂取できます)

暑い日が続きますが、食卓に旬の野菜と和の薬味を添えた料理で涼しく彩ってみてはどうでしょうか。

今回は、今が旬のトマト・おくらを使い、夏にぴったりのさっぱりした一品を紹介します。



「トマトと冷しゃぶの青じそ添え」

☆材料☆(4人分)

【A】

・豚薄切り肉

(しゃぶしゃぶ用) 200g

・トマト(大) 2個(500g)

・はちみつ 大さじ1

・レモン汁 大さじ3

・醤油 大さじ2

・玉葱(すりおろす)

小さじ1

・昆布茶(粉末) 小さじ1

・オリーブ油 大さじ3

【その他の材料】

・油揚げ 1枚

・オクラ 10本

・青じそ 20枚

☆つくり方☆

①ポウルにはちみつを入れ、レモン汁を少しずつ加えてよく混ぜる。Aの残りの材料も順に加えてよく混ぜ合わせておく。

②トマトはよく洗い、半分に切ってへたを取り、一口大に切る。
①のポウルに入れてなじませておく。

③油揚げはオーブントースターでカリッとなるまで焼き、縦

半分に切ってから1cm幅に切る。オクラは塩適量をまぶしてこすり合わせるようにもみ、塩少々を入れた熱湯でサツと茹でる。冷水にとって冷まし、1cmの厚さに小口きりにする。青じそは15枚を1cm角に切り、5枚を千切りにする。

④豚肉は沸騰した湯にしゃぶしゃぶの要領で1枚ずつ広げて入れ、火が通ったら氷水にとって冷やし、水けをひく。

⑤食べる直前に②に③の油揚げ、オクラ、④の豚肉、1cm角の青じそを加えサククリと混ぜ、器に盛る。千切りの青じそを散らす。

LUNCH★BOX

今回は、理学療法士さんのお弁当を紹介します。

大きな卵焼き、オクラのベーコン巻き、イカの煮付け。どれも、隣の真っ白なごはんも相性ピッタリの、いかにも食欲をそそられるおかずばかりです。

撮影日の天気は、雲ひとつな



い快晴だったので、リハビリ庭園で写真を撮影させてもらいました。太陽の下のお弁当は、ますますその彩りを鮮やかにし、食べる人を元気にするパワーを感じさせました。(写真で伝えきれないのが残念です)

「撮影も大変やね」と言いながら、食べるのを待って私たちに付き合ってくれた理学療法士さん。ちょっとはずかしそうに、でも、ずっとニコニコされていた表情が印象的でした。

パワーのあるお弁当を食べて、元気を蓄えて、これからますます患者さんへのリハビリテーションを頑張ってください！

病院の理念

1. 幡多けんみん病院は幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や保健・福祉・介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指します。
2. 地方公営企業として、地域医療をとおして地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営をおこないます。

医療機関を受診される際は、**お薬の内容が分かるもの(薬剤情報提供書・お薬手帳など)**を持って行くようにしましょう！

私たちの目指す医療（基本方針）

1. 正確で間違いのない医療
2. 十分に説明をする医療
3. 透明性を大切にする医療
4. 患者さんの希望を大切にする医療

風鈴

編集スタッフ

風鈴といえは、夏の風物詩の一つです。最近ではあまり見かけなくなりましたが、軒下で「ちりんちりん」と小さな音を奏でてゆらゆらと風に揺れている様子は心を涼しくしてくれます。

風鈴の起源は中国です。中国では、「占風鐸(せんふうたたく)」といって、竹林に下げて風の向きや音の鳴り方で物事の吉凶を占う道具でした。その名残として、日本でもお寺の四隅に風鐸がかかっています。風鐸が風に揺れるガラガラという音が厄除けとして使われました。平安時代、鎌倉時代には、貴族の間で縁側に風鐸を下げて、疫病神が屋敷に入るのを防いだといわれています。現在よく知られているガラス製の風鈴は千七百年ごろにでてきたといわれています。この頃、長崎のガラス職人がガラスを見世物として大阪・京都・江戸を興行してまわりガラスが全国に伝わったといわれています。

す。ガラスの風鈴が庶民の手に入るようになり、厄除けというより「涼」をもたらすものとして広まったのは明治時代に入ってからです。ガラスの風鈴だけでなく、色々な素材の風鈴があります。真鍮やアルミなどの金属を火箸のようにしたものを、東北地方では南部鉄器の風鈴、自然石や備長炭、陶磁器で作られたものもあります。

日本だけでなく、世界各地に様々な素材で作られた風鈴があります。しかし、日本ほど「涼」を意識して風鈴を愛でる習慣はないかもしれません。それは、日本には四季があり、その季節を旬の食べ物、自然の草花などから感じ季節ごとの祭事で楽しむということを古くから行ってきたからです。技術の進歩で暑い夏でも涼しく過ごせるようになった今、忘れかけている「涼」を楽しむ気持ちを思い出してみるのがいいかもしれません。

日々忙しいみなさんに、ゆっくりと風鈴の音色を楽しめる夏が一日くらいありますように……。



6月の統計

外来患者数	14,600人
新外来患者数	2,259人
紹介患者数	361人
新入院患者数	525人
退院患者数	493人
平均在院日数	15日
救急車・時間外患者数	1,185人
手術件数	202件

幡多けんみん病院における患者さんの権利

1. 患者さんは、良質な医療を平等に受ける権利をもっている。
2. 患者さんは、医療を受けるにあたり、十分な説明を受ける権利をもっている。
3. 患者さんは、プライバシーが守られることを期待する権利をもっている。
4. 患者さんは、自分の希望を伝え、医療に参加する権利をもっている。
5. 患者さんは、人間としての尊厳が守られることを期待する権利をもっている。